

1月29日のウクライナ情報

安齋育郎

●ドイツがウクライナへの戦車供与を渋った背景(2023年1月23日)

ドイツがキエフへの戦車譲渡を渋るのは、第二次世界大戦中のナチスの侵略と関係がある。このような見解を示したのは、The New York Times のコラムニスト、スティーブン・エルランゲリとエリカ・ソロモンである。

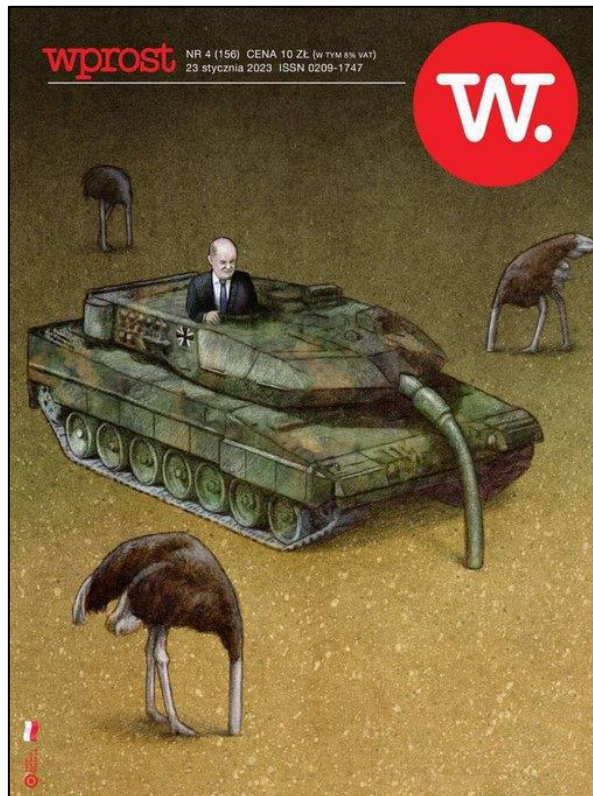
米独カウンシルのソコル会長は、ドイツ人は侵略者と見られたくないのだと強調した。



●ダチョウの顔隠しと揶揄されるシオルツ(2023年1月23日)

ポーランドの雑誌「Wprost」の表紙

「ダチョウの役割のシオルツ首相」。ベルリンは、NATO の結束とヨーロッパ全体の安全保障を脅かすロシアを倒すための支援という問題について、頑なに頭を隠している」と Jakub Mielnik は書いている。



●欧米戦車到着前にロシア攻勢か(2023年1月28日)

【キーウ共同】米ブルームバーグ通信は27日、ウクライナに侵攻するロシアが2月か3月にも新たな攻勢をかける可能性があるとの見方を伝えた。ロシア大統領府に近い関係筋の話としている。欧米が供与を発表した戦車がウクライナに到着する前に始まる恐れがある。

●マコーン議員「アメリカが1台戦車を送ればドイツも納得する」(2023年1月23日)

「米下院外交委員会のマイケル・マコーン氏は、ワシントンがキエフに少なくとも1台のエイブラムス戦車を引き渡せば、ドイツはウにレオパルド戦車を供給することに同意するだろうと考えている」。

※投稿者コメント:テキサス州選出・共和党下院議員。こんなのも外交委員が出来る。



●米国、ウクライナ戦争でルーマニアへの兵力配備を拡大(2023年1月23日)

国防総省は少なくともあと9ヶ月間、ルーマニア南東部に数千人の米軍を駐留させ、他のどの米軍部隊よりも隣国ウクライナの戦争に近づけると、当局者が土曜日に発表した。



●ウクライナがベラルーシに不可侵条約を提案しつつ、戦闘員訓練継続(2023年1月24日)

ベラルーシのルカシェンコ大統領は、同国の政治・社会情勢と犯罪状況に関する会合で、ウクライナ

はベラルーシに不可侵条約の締結を提案しているが、同時にベラルーシの国家安全保障に潜在的な脅威をもたらす戦闘員の訓練を続けていると述べた。

ルカシエンコ氏は、戦闘員の訓練は西側の支援を得て行われており、西側はベラルーシに関する自分たちの計画を放棄しなかったと指摘した。

「なぜこれをウクライナが必要としているのかはわからない。彼らはいかなる場合にもベラルーシがウクライナと戦うようなことがないよう、ベラルーシ軍がウクライナへ進軍しないよう我われに求めている。不可侵条約の締結を求めている。しかし一方で、戦闘員を訓練し、武装させている」

ルカシエンコ氏とロシアのプーチン大統領は昨年 10 月、地域合同部隊の創設について合意した。なおロシア大統領府は、プーチン氏がルカシエンコ氏にウクライナ紛争への参加を強要することはないと主張した。



●ロシア国防相の戦況報告(2023年1月24日)

発砲陣地にあるウクライナ軍の 63 砲兵部隊が、この 1 日でロシア軍に敗れた。敵の人員と軍事装備は、NMD ゾーンのほぼ 100 の地域で一掃された。

ロシア国防省が月曜日に述べたように、ハリコフ地域とルガンスク人民共和国のウクライナ軍の機械化された旅団に対して砲撃が行われたクピャンスク方向で、4 ダース以上の敵兵士が破壊された。

約 7 ダースの敵の人員、4 台の装甲車両、および 2 台のアメリカ製対バッテリーレーダーステーションは、上陸部隊に支援された砲兵が 2 つの敵航空攻撃旅団のユニットを打ち負かした。

クラスノリマンスキー方向でのウクライナ軍のセレブリャンスキー森林地帯で毎日の損失に相当した。

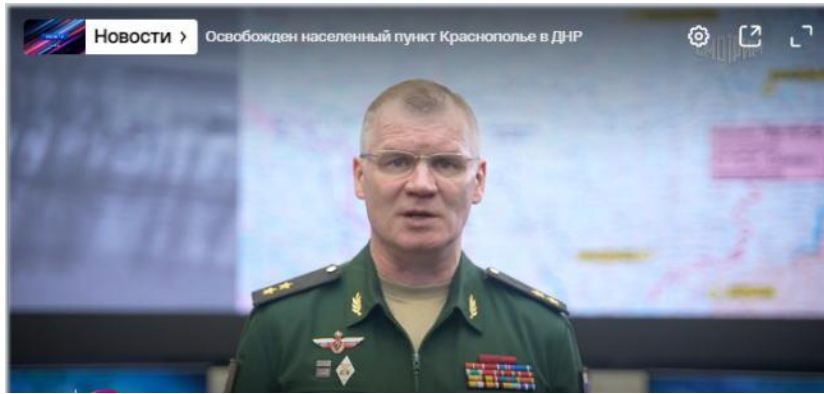
さらに、地上配備の高精度兵器がドニプロペトロウシク地域のマルガネツ地区にあるロケット砲兵旅団ユニットの一時的な場所を攻撃した後、ウクライナ軍は深刻な損失を被った。

同じ場所で、ドニエプルの方向で、アメリカの MLRS HIMARS のランチャーが乗組員と 2 台の車とともに破壊されました。

ロシア国防省によると、国内の防空システムは、ルガンスク人民共和国とハリコフ地域の地域で 1 日で 3 つのウクライナのドローンを撃墜した。HIMARS から発射された 14 発のロケット弾が、ドネツク人民共和国とルハンスク人民共和国で迎撃された。

以下は 2023-1-23 までのロシア軍がウクライナ軍の武器を破壊した実績。(典:ロシア国防省)

ウクライナでの特別軍事作戦の開始以来、ロシア軍は 376 機の航空機、203 機のヘリコプター、2,934 機の無人偵察機を撃墜し、401 機の防空システム、7,607 両の戦車とその他の装甲車両、987 両の多連装ロケット砲、3,893 門の野砲を破壊した。および迫撃砲、およびその他の 8,153 の軍用車両も破壊した。



●ポーランドのウクライナ分割統治計画を元外相シコルスキー認める(2023年1月24日)

一方、ハンガリーからは別の発言が聞こえてきた。ハンガリー外相「ここ数週間、ウ西部でハンガリー民族社会へ深刻な攻撃が行われている。ハンガリー学校の理事や先生が何の正当性もなく集団で解雇されている。」

<https://twitter.com/i/status/1617789132918620162>



●ウクライナでの「世論調査」(2023年1月24日)

※安齋注:こういう事態のもとでの世論調査は「国策追認・強化」のために利用されることが多く、全く宛てになりません。自由な記述や回答が許されない圧力が働いているのでしょうか。

Razumkov センターの新年の世論調査

ゼレンスキーを支持するウ人は 60%

2位の総司令官ザルジニーは 10%支持。ペトロ・ポロシェンコは 2%。アレストビッチ(辞任前)とミハイロ・ポドヤク 1%。

ウの EU 加盟支持 87%。

NATO 加盟支持率は 86%。

ポーランドや英国と反ロシア同盟を結ぶことに賛成 85%

いかなる和平協定にも合意せずロシアと戦うべきだと確信しているウ人は 96%

※投稿者コメント:このような愛国者のウクライナ人が、なぜ召喚状を配り動員のために連行するのか?現在の状況で調査結果を信じていることができるのは、完全な馬鹿か四角四面の馬鹿だけである



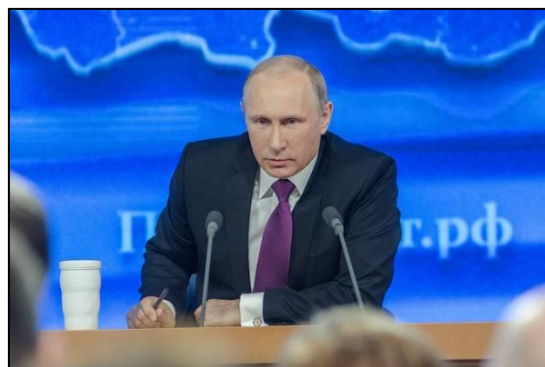
●おととと〜〜〜！NATO 事務総長ヨウクライナが表彰(2023 年 1 月 24 日)

[NATO 事務総長のストルテンベルグは、「民主的、社会的、法治国家としてのウを促進し、強化するためのウ国民への貢献」に対してウ議会から名誉賞を授与した]



●ドイツ戦車供与についてのロシアの見立て(2023 年 1 月 24 日)

クレムリンは 1 月 24 日、ドイツの戦車がウに引き渡されても「何も良いことはない」と述べた。
パスコフ報道官は、ベルリンとモスクワの間に「これらの納入は将来の関係に何も良いことをもたらさないだろう」と述べ、さらにこう付け加えた。
「永続的なキズ跡を残すだろう」



●ドイツ国防省、浮くライアンへの戦車供与について見通し(2023 年 1 月 24 日)

ドイツ国防相ピストリウスは、同盟国はウクライナ人にレオパルド戦車の訓練を開始できると発表。
NATO のストルテンベルグは、ウクライナにドイツ製のレオパルドを送ることについて「近いうちに」

決定がなされる見込みだと述べた。



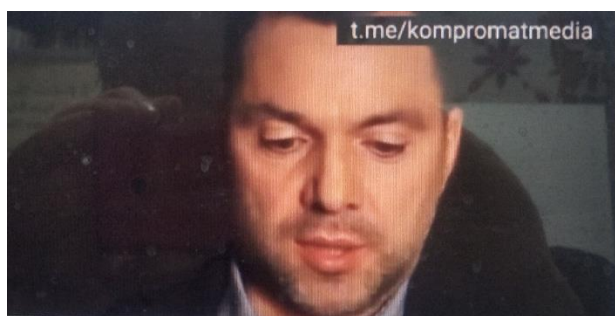
●辞任したウクライナの大統領顧問の大統領評(2023年1月24日)

※安齋注:ウクライナのオレクシイ・アレストビッチ大統領府顧問は1月17日、ロシア軍による東部ドニプロペトロウシク州の州都ドニプロの集合住宅への攻撃を巡って、混乱を招いた責任を取り、辞任する意向を表明した。

「ゼレンスキーは弱い男だ」とアレストビッチは言った。「彼には、ちっぽけなエゴと恐怖心という 2つの鍵がある」。

現在、ウクライナのすべての政権幹部は海外渡航が禁止されている。

<https://twitter.com/i/status/1617831694811426821>



●マリンカの攻防(2023年1月24日)

DNR代表代行でプシーリン氏は、マリンカ解放の問題は時間の問題であるにもかかわらず、敵の抵抗は予想以上に強いと述べた。氏は、ウクライナ軍兵士はマリンカを死守せよと命じられているように述べた。



●欧米は集団的にウクライナを連合国に対する破壊活動の拠点に変えた＝ラブロフ露外相(2023年1月19日)

1月19日、セルゲイ・ラブロフ露外相はベラルーシのセルゲイ・アレイニク外相との共同記者会見にのぞんだ中で、欧米がウクライナをロシアとベラルーシに対する戦争の拠点に変えたとする声明を表した。

「西側は一丸となって、ロシアとベラルーシの重要な国益に対する直接的な脅威を作り出すために、まさにキエフの背中を押しているという点で我々の見解は一致している」ラブロフ外相はこう指摘している。

ラブロフ外相はさらに、OSCE がその原則から逸脱し、急速に崩壊していると指摘した。アレイニク外相もこの点でラブロフ外相の見解を支持し、ミンスクとモスクワは、OSCE がシステム上の危機にあるという見解で一致していると述べている。

ラブロフ外相は、ロシアとしては、自らの政策が袋小路に入ったことに西側が気付いていると期待したいものの、現時点では欧米が正気にもどったという兆候は見えないと述べた。

「我々は、米国とその衛星国が NATO を拡大し、NATO 軍と軍事インフラを我々の共通の国境(編集:ロシアとベラルーシ)に接近させる破壊的な路線をとっていることに、再び深い懸念を表明した。これは政治的・軍事的緊張をエスカレートさせるものであり、我々としてはこれに反応しないわけにはいかない」

1月19日、ラブロフ外相はベラルーシのルカシェンコ大統領とも会談し、政治・軍事分野および国防におけるロシアとベラルーシの間の協力について協議した。



●ドイツ国防相「NATO はウクライナ紛争の当事者になるべきではない」(2023年1月14日)

ドイツのピストリウス国防相は24日、北大西洋条約機構(NATO)のストルテンベルグ事務総長と共同記者会見し、NATO はウクライナ紛争の当事者になるべきではないと指摘し、この原則は今日も機能していると表明した。

一方、ピストリウス氏は、ドイツはウクライナに大きな支援を行っており、支援規模に関してドイツはトップレベルの国の1つだと強調した。

ストルテンベルグ氏は、ウクライナ軍はより重量がある近代的な兵器を必要としていると指摘し、「生き残るだけでなく、勝利し、領土を取り戻し、主権を持つ独立した欧州の国家として存続するために」と述べた。

同氏はまた、近いうちに西側諸国がウクライナへの戦車供与について合意に達するとの確信を示した。ストルテンベルグ氏は特に、ドイツは自国製の戦車「レオパルト 2」の供与について「近いうちに」決

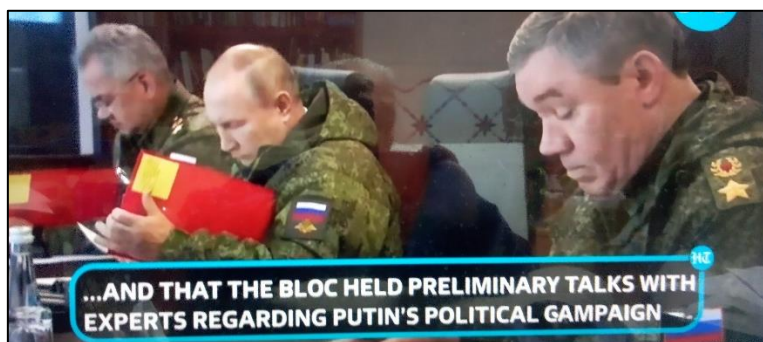
定を下すとし、同戦車をウクライナへ供与する意向を表明した国は乗組員の訓練を開始することができるとドイツがすでに発表したことを明らかにした。

ドイツは、ウクライナへの戦車「レオパルト 2」の供与を躊躇している。最近この問題をめぐり、ドイツ首相への圧力が著しく高まっている。ロシアのペスコフ大統領報道官は、ウクライナへのドイツ製戦車の供与について、「今後の露独関係に必然的に影響する」と述べた。



●ロシアの 2024 年の大統領選挙(2023 年 1 月 24 日)

報道によると、クレムリンはウラジーミル・プーチンの 2024 年の大統領選挙に向けた準備を開始した。コメルサントは、ロシアがウクライナで軍事攻勢を削っているにもかかわらず、今度の大統領選挙は予定通り行われるだろうと報じた。また、クレムリンの内政ブロックは、プーチンが 2024 年に再選を目指すと考えており、ブロックは選挙運動の主要な構成要素について専門家と予備会談も行ったという。大統領選挙に先立ち、ロシアが併合したと主張するウクライナ領を含む約 22 の地域で、地域別の投票が行われる予定だ。専門家によると、これらの地方投票は 2024 年の大統領選の前哨戦になるという。



●専門家が語る ウクライナ政府へのレオパルド戦車供与の決定は何次第？(2023 年 1 月 24 日)

ポーランドのモラヴィエツキ首相は、ドイツ訪問の際にウクライナにドイツの主力戦車「レオパルド」を供与するよう要求すると明らかにした。ウェブサイト「MilitaryRussia.ru」の編集長であるドミトリー・コルネフ氏が、スプートニクのインタビューで、この状況についてコメントした。

2023 年 1 月 16 日からドイツを訪問しているモラヴィエツキ首相は、今回の訪問の主な目的である、ウクライナ政府にレオパルド戦車の供給を開始するようドイツの政治家を説得することを隠していない。訪問を前にモラヴィエツキ氏は、「ドイツのパートナーが思い切った態度を示し、ウクライナに重

機のかなりの部分を供与してくれることを期待している」と述べている。また 11 日には、ポーランドのアンジェイ・ドゥダ大統領が、ポーランド政府はウクライナ政府にレオパルド戦車の中隊を引き渡す準備ができていると述べた上で、ドイツがこの行動に参加し、ウクライナ政府に相当数の戦車を送ることに期待を示した。

ポーランドの要求について、コルネフ氏は「ポーランドや他の国からのレオパルド戦車を供与することは、製造元であるドイツの承認がない限り不可能だ。ドイツは責任を負いたくないとして、ウクライナへの重機供給は北大西洋条約機構(NATO)加盟国の共同決定によってのみ可能であるとの事実可言及している。また、英国が戦車『チャレンジャー2』の供給を開始すると決定したことは大きな役割を果たすことになるだろう」と説明している。

コルネフ氏は、ウクライナへの戦車供給問題に関して、NATO 加盟国とその同盟国の共通の立場が、早ければ今週中にまとまる可能性がある。同氏は「1 月 20 日にラムシュタイン(ドイツ)で、ウクライナへの軍事・技術支援について話し合う会議が開かれる。そこで、そういった決定が下される可能性もある」と推測している。また、このような決定がなされれば、カナダ、デンマーク、フィンランドなど多くの国がウクライナにレオパルド戦車を供給し始める可能性がある。「レオパルド 2 は、欧州と NATO 加盟国に合計で約 1700 両配備されている。従って、20 日以降にキエフに供給されるかもしれない」とコルネフ氏は説明している。

これよりも前、ウクライナのレズニコフ国防相が、ウクライナ軍は NATO の兵器を保有しており、その使用方法を知っているため、ウクライナは事実上の NATO 加盟国であるとの考えを示した。



●NATO 事務総長、ウクライナ紛争の長期化に備えるよう呼びかけ(2023 年 1 月 2 日)

NATO(北大西洋条約機構)のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は、BBC のインタビューに応じた中で、ウクライナ紛争の長期化に備えるよう西側諸国に呼びかけた。

ストルテンベルグ氏は「周知の通り、ロシアはウクライナへの支配を確立するという主な目標を放棄するつもりはない。このため、長い道のりを覚悟しなければならない」と語った。

ストルテンベルグ氏によると、ウクライナ政府の条件で和平協定を締結するために、ウクライナは長期的な軍事支援を切実に必要としている。

ストルテンベルグ氏は、以前にも「ウクライナ軍事支援は平和への最短の道のり」とし、ロシアはウクライナで自身の目標を達成することは不可能と理解すべきであり、そうして初めて和平交渉が可能に

なるとの考えを示した。

先に、ゼレンスキー大統領は、ロシア軍が 1991 年時点の国境にまで撤退することが戦闘行為を終了させる上で唯一の道だと表明した。一方、ロシア政府関係者は、スプートニク通信に対して、1991 年時点の国境に戻りたいのであれば、国境についてではなく、中立と非同盟の地位、ロシアとの兄弟的關係、つまりウクライナ政府によって破壊され、危機に陥ったもののすべてについて話すべきだと指摘した。

